歯科内保育室を利用する親のアタッチメントに関する研究

東北大学　鈴木光海

2025 年 9 月にイギリス・ロンドンにて開催の BPS Developmental Section（イギリス心理学会発達部門）において、ポスター発表を行いました。私は歯科内保育室に関する研究を行っています。これまでの就学前施設や子育て支援拠点における保育者の子育て支援とは異なり、適切な心理的距離と安心感に基づき、歯科における 3 か月ごとの子育て支援を利用する親の特徴を、アタッチメントの観点から検討しました。

国際学会の参加者は「ただただ研究が好きで、探究に夢中」な様子であり、服装も年齢も肩書きも関係なく、一人の研究者としてフラットに向き合っているという感覚がありました。そうした中、アタッチメントスケールや、親子が保育者に「どうくっつきどう安心を得るのか」、また日本におけるその独自性についても、さまざまにご指摘をいただき議論を行うことができました。発表中には、現地の Professor のお子さん（お父様は発表に夢中？）が、私のポスターの周りをよちよち歩きで探索にいらっしゃいました。拙い英語でお子さんと会話ややりとりをしつつ、日本の見守る保育（Nakatsubo et al,2018）も実践しながら、発表・応対するという思い出もいただきました。抱っこをさせていただいた際、お互いの髪や瞳をじーっと見合ったことや、お子さんのにこにこの笑顔も忘れられません。

海外あるある（？）の、地下鉄ストライキという混乱した街の中でしたが、精神の平静を保ち無事に発表が終えられたのも、学内外の研究者ネットワークや職場の上司同僚、友人知人のご助言やお励ましのおかげでした。日本保育学会さまのあたたかなご支援にも、心より御礼申し上げます。今後も真摯に、そして面白がって研究を行うとともに、日本の保育学研究における海外への発信にも注力いたします。